

# 安全報告書



2021年

ちばシティバス株式会社

## 運輸安全マネジメントに関する取り組みについて

当社では、「運輸安全マネジメント」に基づき、輸送の安全に関する情報を以下の通り公表します。

### 1. 輸送の安全に関する基本的な方針

当社における輸送の安全に関する基本的な方針は以下の通りです。

- (1) 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内における輸送の安全の確保に主導的役割を果たしてまいります。また、安全に関する社員の声に耳を傾けるなど、現場の状況を十分踏まえつつ、社員に対して輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させます。
- (2) 当社は、輸送の安全に関する「計画の策定、実行、チェック、改善（PDCAサイクル）を実施し、輸送の安全性の向上に努めてまいります。また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表致します。

### 2. 輸送の安全に関する目標及び目標の達成状況

#### (1) 2020年度の安全目標とその結果

当社では、軽微な車両破損（例：当社車庫内の施設にバンパーを接触させ、3cm程度の擦過痕を発生させた等）も、重要な事故として捉え、そこから派生するかもしれない重大事故への芽を摘み取ることとすべく、全ての有責事故を件数としてカウントしております。

2020年度の目標は、31件以内としましたが、実績事故件数は52件となり、目標を達成することができませんでした。

#### (2) 2021年度の安全目標

昨年度の目標値と同じく「31件」に設定して事故減件に取り組んでまいります。

### 3. 事故に関する統計

2020年度における自動車事故報告規則第2条に該当する事故

- ・事故 0件
- ・車両故障 1件

#### (1) 車両故障の概要

高速乗合バス「館山線」千葉みなと駅発安房白浜駅行きを運行中、富津館山道の鋸南富山IC付近にてエンジンの不具合を示す警告灯が点灯し、エンジン出力不足を乗務員が感じたことから運行管理者へ報告。平坦路での走行に問題はなかったことから、終点の安房白浜駅まで定刻運行しました。

管理者は念のため代走車両を手配。折り返し千葉みなと駅行きは代車にて運行しました。

車両交換後、当該車両の警告灯は消灯していたため、別の乗務員が自走にて一般道路を回送しましたが、上総湊付近で再度エンジン出力不足の症状が発生し、君津バスターミナルで回送停止、修理業者が現地修理を試みましたが修復が困難だったため、レッカー車両を要請したものです。

## (2) 事故の原因・再発防止対策

燃料系統に鉄粉の混入が見受けられ、インジェクターに流入したことにより、燃料が適切に噴射されなくなり、警告灯が点灯しエンジン出力が低下したものです。この故障直前に、エンジン始動不良による燃料ポンプの交換・清掃作業を実施していましたが、この作業の際に鉄粉を完全に除去しきれなかったのが原因と推察されます。

再発防止策としては、定期点検時および自主点検時に当該箇所を重点的に点検するとともに、故障修理完了後の確実な試運転を実施することとします。

## 4. 輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置

### (1) 事故防止対策委員会の開催

輸送の安全に関する目標を達成するため、管理者と社員代表で構成する「事故防止対策委員会」を定期的に開催し、事故情報の共有や事故の分析に基づく再発防止策について意見交換を実施、社員の意見を反映した各種施策に取り組みました。

### (2) ヘッドライトの常時点灯、車外注意喚起放送装置（安全くん）活用の実施

当社では重大事故撲滅の一環として、2017年12月8日より、時間天候を問わず全車両ヘッドライトの常時点灯と、交差点右左折時や危険個所での車外注意喚起放送装置（安全くん）の吹鳴を実施しております。これにより周囲の交通参加者に対しバス接近に気づいていただくこと、またスイッチや音声装置を起動させることにより乗務員自身の安全意識を高めるといふ、2つの効果で事故防止に努めております。

### (3) 設備投資

①最新車両1両導入 (大型高速バス)	3,650万円
②車両整備・機材類 (ディーラーによる定期点検・ドラレコ・デジタコ・バックカメラ等)	2,250万円
③教育・指導に関する費用 (適性診断・外部講師による講習等)	43万円
④健康管理に関する費用 (定期健康診断・MRI健診・インフルエンザ予防注射等)	128万円

(4) 高速車両については、2020年度も1両新造いたしました。これによりASV（車両安定制御システム）・VSC（横滑り防止装置）・PCS（衝突被害軽減ブレーキ）等の運転支援装置搭載車は5両となりました。また2020年度導入車両につきましても、EDSS（ドライバー異常時対応システム）を導入しております。

なお、これら運転支援装置の誤理解による事故を防止するため、全乗務員に指導教育しております。

- (5) 全車 LED ヘッドライト、ミラーヒーター、安全くんを 2017 年度に導入済みです。
- (6) 事業用自動車の安全対策として、「睡眠時無呼吸症候群」スクリーニング検査を 2020 年度に新人乗務員対象に実施しました。2021 年度におきましては全員実施予定です。また主に高速バス運転士を対象に MRI 検診「脳ドック」を実施し、健康管理に努めております。
- (7) より安心快適なバスを目指し、高速バスに AED（自動体外式除細動器）を搭載しております。また、高速バス乗務員に、インターネットによる応急手当 WEB 講習（e-ラーニング）、及び救命講習を受講させ、不測の事態にも対応できるよう訓練しております。
- (8) 2015 年度からドライブレコーダーの導入を開始し、2016 年度には全車装着を完了しております。
- (9) 貸切バス事業者安全性評価認定制度  
当社では公益社団法人日本バス協会より、安全に対する取り組み状況が優良なバス会社として「貸切バス事業者安全性評価認定制度」による「三つ星」認定を受けております。



## 5. 輸送の安全に係る情報の伝達体制その他の組織体制

別添「事故発生時等における社内連絡体制図」 参照

## 6. 輸送の安全に関する教育及び研修の実施状況

### (1) 適性診断の実施

全乗務員を対象に原則として3年に一度の頻度で、独立行政法人自動車事故対策機構が実施している一般診断を受診しています。また、適齢診断につきましては、法令よりも厳しい2年ごとの受診とし、高齢ドライバーによる事故を未然に防ぐべく取り組みを実施しています。

### (2) 乗務員研修

①2020年度の安全研修は、4人一組となってドライブレコーダーのヒヤリハット映像等を視聴・討議したり、お立ちのお客様や車いすでご利用のお客様の、乗車中のお気持ちを体感する実車訓練を、営業所長や運行管理者が中心となって実施しました。

特に実車訓練では、運転していない他の乗務員は、立って乗車したり車いすに座って乗車し、カーブでの遠心力を体感したり、運転操作について乗務員同士で褒め合ったり指摘し合い、安全意識を向上させています。



- ②2018年度より自動車安全運転センター（安全運転中央研修所）の「旅客自動車運転者過程」に累計10名受講させ、車両特性の限界と重要性、輸送業務のさらなる安全性向上を図るべく必要な知識等の教育を実施いたしました。今年度も受講予定です。
- ③交通安全運動等への積極的な取り組み、安全確保・飲酒運転撲滅の為に厳正な点呼・朝礼の実施、法令違反抑止及び安全意識向上の為に、社長を含む全員が運転記録証明書の提出等を実施しております。

## 7. 輸送の安全に係る内部監査の結果並びにそれに基づき講じた措置及び講じようとする措置

2020年8月に内部監査を実施いたしました。安全管理体制や安全への取り組みについて適合性及び有効性に関し、適性であることが確認されました。

## 8. 安全管理規定

別添、「安全管理規定」参照

## 9. 安全統括管理者

営業部長 深谷 昇

以上